# 令和２年度学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | 具体的取組 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び改善策(成果と課題) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 学習習慣の確立と教科指導力の向上<br><br>・学ぶ楽しさや充実感、達成感の得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て進んで学習に向かう力を育成する。<br><br>・生徒の学習状況を把握し、個別指導、習熟度別指導や学習方法の指導を効果的に取り入れ、学習内容の着実な定着と学力向上に努める。<br><br>・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、近隣校への授業参観大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。 | ① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。 | 【努力指標】<br>思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を展開する。 | 【教員】思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業は全授業回数の<br>A. ４割以上である<br>B. ３割以上４割未満である<br>C. ２割以上３割未満である<br>D. ２割未満である | 「３割以上である」<br>76.9%　B | 教科の性質によってバラツキはあるが、この３要素(思考力・判断力・表現力)を育成する授業は、毎授業で何らかの形で取り入れたい。また、ＰＤＣＡを意識しながら、常に授業改善に努める気持ちを持続しながら授業に臨む必要がある。 |
| | ② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。 | 【成果指標】<br>生徒は授業に動機づけられ意欲的に学習に取り組んでいる。 | 【生徒】授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が<br>A. ８０%以上　B. ７０%以上<br>C. ６０%以上　D. ６０%未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>87.1%　A | 工夫した授業展開により高評価となっている。また、プロジェクターが各教室に配置されており、ICT機器を活用した授業展開が増えている効果も大きい。今後も生徒の意欲向上に繋がる授業の展開が必要である。 |
| | | 【満足度指標】<br>授業が生徒から高く評価されている。 | 【生徒】授業内容を理解できると答える生徒が<br>A. ８０%以上　B. ７０%以上<br>C. ６０%以上　D. ６０%未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>82.3%　A | 前回に引き続いてICT機器の工夫した活用や、習熟度別学習の効果が大きいと思われる。ただ、その場の理解はできてもなかなか定着に結びつかない生徒が多いように思われる。 |
| | ③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への指導・助言・相談に携わる。 | 【成果指標】<br>平均家庭学習時間が前期<br>１年　９０分<br>２年　１０５分<br>３年　１２０分<br>後期<br>１年　１０５分<br>２年　１３５分<br>３年　１５０分 | 【生徒】目標家庭学習時間を達成した生徒が<br>A. ５０%以上　B. ３５%以上<br>C. ２０%以上　D. ２０%未満 | 27.7%　C | 10月～1月分での計6回分の調査結果である。前期の27.1%を上回った。内訳は1年生23.4%、2年生22.5%、3年生41.9%であった。特に、2年生は前期17.9%と低かったことと後期の目標時間が30分延びたことを考えると、努力した生徒が増えてきているが、テスト期間以外では学習時間が少ない傾向は続いており、意欲的に自学に取り組む工夫が必要と思われる。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | 「思考力・判断力・表現力」を高める授業を展開してほしい。また、家庭学習の目的は何かについて共通理解を持ち、学習課題の与え方についてはオンラインを活用する等、工夫する必要がある。 |
| 評価結果を踏まえた今後の改善策 | 「思考力・判断力・表現力」の観点を踏まえた学習活動に取り組み、求められる学力観に基づく生徒を育成する。また、家庭学習については、生徒が自発的に学習するように習慣化させることが第一義であるので、その趣旨を踏まえた上で学習時間調査を分析し、家庭学習の習慣化に繋げるとともに、オンラインを活用した学習支援を検討する。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び改善策(成果と課題) |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 豊かな人間性の育成と健康や体力の増進及びたくましい人づくりの推進<br><br>・健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣を確立させるとともに、感染症対策の徹底を図る<br><br>・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。<br><br>・生徒理解を深め、いじめ・暴力・ネットトラブル等の問題行動や不登校の未然防止と早期の対応に努める。 | ① 日常での遅刻、服装、マナー等に関する基本的生活習慣の指導を全教員で行う。 | 【成果指標】<br>頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合を10%以下にする。 | 【生徒】頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合が<br>A．１０％未満　B．１５％未満<br>C．２０％未満　D．２０％以上 | 7.35%　A<br>（25人） | 年間を通じて頭髪服装に関する意識は落ち着いた状況であったと言える。遅刻者数では昨年度比約49.9%となり、生活習慣と意識が高まってきている。登校指導における職員と生徒との関わりが重要である。 |
| | ② 感染症対策の徹底のため、保健衛生環境の整備を全教員で行う。 | 【成果指標】<br>感染症に対する対策に取り組んでいる。 | 【教員】感染症対策について、校内で意識的に取り組んでいると答える教員の割合が<br>A．９０％以上　B．８０％以上<br>C．７０％以上　D．７０％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>96.4%　A | 保健課を中心に換気の徹底や加湿器を教室に設置する等、新型コロナウイルス感染症対策について、教職員全体で取り組んでいる結果である。最新の情報の把握に努め、緩めることなく対応したい。 |
| | ③ 鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。 | 【満足度指標】<br>生徒が主体的に参加し、生徒会活動に満足している。 | 【生徒】行事に対して満足感・達成感を持っている生徒の割合は<br>A．８５％以上　B．７５％以上<br>C．５５％以上　D．５５％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>81.1%　B | 生徒の熱い想いと職員の熱心な支援が重なって、高い数値となった。新型コロナウイルス感染症、怪我、熱中症等、あらゆる面で対策を行い生徒・職員が協力して取り組んだ事が成果として表れている。そして、それらを保護者が評価して下さっている事が大きい。 |
| | | | 【保護者】子どもが学校生活を意欲的に送るようになったと答える保護者が<br>A．８５％以上　B．７５％以上<br>C．５５％以上　D．５５％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>90.9%　A | |
| | ④ 部活動では健康・安全面を考慮し、有意義で充実した活動を行う。 | 【満足度指標】<br>部活動に意欲的に取り組み満足している。 | 【生徒】充実した部活動を実践していると感じる生徒が<br>A．８０％以上　B．７０％以上<br>C．６０％以上　D．６０％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>77.4%　B | 前期は80%を上回るA評価であったが、後期はB評価となった。学校経営の柱としての部活動の体制を整えたい。 |
| | ⑤ 問題を抱えている生徒に対して、生徒指導課・保健課・教育相談課・ホーム担任を中心に全教員で連携し、解決にあたる。悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。 | 【成果指標】<br>生徒が意欲的に登校できるように支援する。 | 【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が<br>A．７０％以上　B．６０％以上<br>C．５０％以上　D．５０％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>81.5%　A | 数値としては高いが、肯定的評価はマイナス傾向である。生徒の個々の状況は異なるが、早期対応に一層努めるとともに情報共有を図り、より一層教職員間の連携を進めていきたい。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | 生徒のあいさつがとても印象的であり、落ち着いた学校であることが感じられる。今後とも基本的生活習慣の指導をお願いしたい。また、生徒数が減る中で部活動を維持することは大変だと思うが、頑張ってほしい。 |
| 評価結果を踏まえた今後の改善策 | 生徒のあいさつが活発になったり、遅刻者が大幅に減るなど、取組の成果が表れているので、今後も継続して基本的生活習慣の指導を全教職員で行う。また、学校の活性化を図るために、学校行事と部活動について学校全体で取り組み、生徒の自主性や協調性などを育みたい。 |

| 重点目標 | | 具体的取組 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び改善策(成果と課題) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ３ | キャリア教育の推進と進路指導体制の確立<br><br>・総合的な探究の時間やインターンシップ等を通してふるさとや将来について考える機会を持たせ、地域と連携し、主体的な進路の選択能力を育成する。<br><br>・読書活動、進路学習、講演会、面談指導等を通して明確な進路目標を持たせながら、進路実現を目指す態度を早期に実現する。<br><br>・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、３年間を見通した進路指導体制を構築する。 | ① | 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会など進路ガイダンスを充実させる。<br><br>面談等により生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。また、必要に応じて教科担当者の面談も行う。 | 【努力指標】<br>生徒の意欲を引き出す進路ガイダンスを実施する。 | 【教員（担任+進路指導課）】半期に行う進路ガイダンスの回数が教員回答の平均で<br>A. ５回以上実施　B. ４回実施<br>C. ３回実施　D. ３回未満 | 平均3.9　C | 回数の数値だけに拘らず、生徒の意欲に繋がる内容や取組の中身の検討が必要である。また、従来型の職業選択から逆算する進路意識構築だけではなく、自己理解と社会理解を探究によって同時に深め進路に繋げる取組も必要である。 |
| | | | 【満足度指標】<br>進路実現のために必要な情報が何なのかを理解できている。 | 【生徒】自分の進路希望を実現させるために必要な情報が何であるかを<br>A. よくわかっている<br>B. 進路ガイダンスでわかることが多い<br>C. 進路ガイダンスでわからないことが多い<br>D. 全くわからない | 「よくわかっている」＋「わかることが多い」の割合が<br>85.4% | １年生の満足度が中間報告時に比べて+25%になったほか、２年生・３年生ともに「よくわかっている」の割合が上昇した。引き続き生徒の実情把握に努めつつ進路意識の一層の向上を図りたい。 |
| | | ② | 「総合的な探究の時間」の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。 | 【成果指標】<br>取組を主体的な進路の選択能力の育成に結び付ける。 | 【生徒】取組によってふるさとや将来について考えられたと答える生徒の割合が<br>A. ７５%以上　B. ６５%以上<br>C. ５５%以上　D. ５５%未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>84.2%　A | 「よくあてはまる」は+12.6%だが、２年生では+18.3%と大きく伸びた。個人探究が起因しているのではないかと考えられる。主体的な進路選択につなげたい。 |
| | | ③ | 朝読書や学級文庫等で、読書意欲を喚起し、読書の習慣を身につけさせることで、自分自身を見つめながら自己の将来についても考えることができる生徒を育成する。 | 【成果指標】<br>読書が進路について考えたり、進路を決定したりする際の動機づけになる。 | 【生徒】読書は進路について考えたり、社会や自分をみつめたりするうえで有意義であると答える生徒の割合が<br>A. ７５%以上　B. ６５%以上<br>C. ５５%以上　D. ５５%未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>86.2%　A | 全体は+5.9%だが、2年生の「よくあてはまる」が+15.5%で伸び率が高い。今年度5月9月の「図書教養講座」を進路志望別に実施した成果だと思われる。今後は、講座と朝読書をリンクさせていきたい。 |
| | | ④ | 教科会議で各種の試験・模試等のデータを分析して生徒の状況を的確に把握した上で、授業で指導する内容を検討する。幅広い進路選択に対してきめ細かく指導し進路実現を図る。 | 【努力指標】<br>入試問題の重要事項とその指導法について検討し、教科指導力を向上させる。 | 【教員】入試問題の研究をふまえて，生徒がわかる楽しさを実感できる授業実践が<br>A. 出来ている<br>B. ある程度出来ている<br>C. あまり出来ていない<br>D. 全く出来ていない | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>72.7% | 今年度前期の肯定的評価63.8%と比べると、+9.1%であった。大学入試の時期を迎え、生徒支援に努める中で、授業改善に取り組んだ結果である。今後とも大学入学者選抜改革の現状を研究し授業改善に努める必要がある。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | 進路指導体制に係る目標は生徒の成果を表すような具体的な基準の方が良い。また、「総合的な探究の時間」において一層地域連携を深めるとともに、発表の機会を多く設けることに加えて、大学と連携していくことも視野に入れ、より充実させて生徒のキャリア形成に結びつけてほしい。 |
| 評価結果を踏まえた今後の改善策 | 進路指導体制の目標に対する目標達成度判断基準を進路指導結果に基づくものに変更する。また、「総合的な探究の時間」において、大学を含め外部機関との連携をより一層進めるとともに、教育的効果が大きい外部での発表を行うことを含めて、積極的に発表の場を設ける。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び改善策(成果と課題) |
|---|---|---|---|---|---|
| ４ 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進<br><br>・働き方改革への意識を高めながら業務改善を組織的に推進し、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教職員としての指導力向上に努める。<br><br>・学校公開、ホームページ、学校だよりマスメディアなどによって広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。<br><br>・中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。 | ① 教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。 | 【成果指標】<br>学校が組織的に業務効率改善に取り組むとともに、教員も業務効率化意識が高まっている。 | 【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が<br>A．８０％以上　B．７０％以上<br>C．６０％以上　D．６０％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>71.4%　B | 今年度前期の肯定的評価69.2%と比べると、+2.2ポイントであった。業務改善を行う際の視点であるＥＣＲＳ（削除・統合・交換・簡素）を使って、業務の見直しを図った結果である。教職員の意識を改革し、効率化・スリム化を推し進めていく。 |
| | ② 各課・学年と連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。 | 【成果指標】<br>保護者が学校の教育活動に関心を持ち、本校に足を運びたいと思っている。 | 【保護者】ＰＴＡ教育懇談会当日の出席率が<br>A．４５％以上　B．３５％以上<br>C．２５％以上　D．２５％未満 | 8.0%　D | 昨年度より-4.9ポイントであった。昨年の成果から、生徒の活躍場面を参観してもらうため、授業・発表会参観を実施した。一定の成果はあったが、3年生保護者の参加がほぼなかった。全学年の希望に添う企画を検討しなければいけない。 |
| | ③ 学校と家庭が連携し、携帯電話、スマートフォンを適切に使用する態度を身につけさせるようにはたらきかける。 | 【成果指標】<br>保護者と生徒が相談してスマートフォンについての「家庭内ルール」を作り、そのルールが守られている。 | 【生徒】携帯電話、スマートフォンの「家庭内ルール」を「守っている」、「ほぼ守っている」と回答した生徒の割合が<br>A．８５％以上　B．６５％以上<br>C．５０％以上　D．５０％未満 | 「守っている」＋「ほぼ守っている」の割合が<br>84.1%　B | 昨年度の肯定的評価76.6%と比べると、大幅にポイントを上げた。ただし、1年生の割合が前期に比べて下がっている(95.2%から66.6%)。スマホ・インターネット利用に関して様々な危険性を指導し、注意喚起を継続していく。 |
| | ④ ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。 | 【満足度指標】<br>ホームページや通信文書を見る保護者が多くなり教育活動への理解が深まる。 | 【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が<br>A．９０％以上　B．８０％以上<br>C．７０％以上　D．７０％未満 | 「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」の割合が<br>83.5%　B | 例年通り85%前後の数値を維持しているが、今年度前期に比べると-3.7ポイントであった。今後は学校行事に限らず、本校で行われている活動を積極的に発信していくことが必要である。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | 鹿西高校は地域密着型の学校であるが、ＰＴＡ教育懇談会当日の出席率が低い。地域から信頼される学校づくりという視点で改善が必要である。働き方改革については、休みの日がしっかりあることがとても大事である。ホームページの活用について再検討し、使い方について検証してほしい。 |
| 評価結果を踏まえた今後の改善策 | 「総合的な探究の時間」での取組を保護者にも伝え、ＰＴＡとも連携して取り組む。働き方改革については、業務の効率化と平準化を進めると共に、定時退校日及び部活動休養日の取組を徹底する。ホームページの活用については掲載する内容について再検討する。 |